

次世代架線系林業機械開発等生産性向上事業（継続）

【平成27年度概算決定額 71,956（84,690）千円】

事業のポイント

木材の安定供給体制の構築に向け、急傾斜地等における効率的な作業システムの基盤となる林業機械の開発及び機械・作業システムの効率的な運用に必要な技能者の育成等を進めます。

<背景／課題>

- ・利用期を迎えつつある森林資源を有効活用し、林業の成長産業化を図るためには、木材生産及び造林作業の飛躍的な生産性の向上とともに、国際競争力のある効率的かつ安定的な国産材の供給体制の構築を図る必要があります。
- ・特に急傾斜地等においては、架線集材による低コストで効率的な作業システムの確立が急務な課題となっており、こうした作業システムの基盤となる機械の開発や技能者の育成等を早急に進める必要があります。

政策目標

素材生産量に占める高性能林業機械を使用した生産量の割合を平成31年度までに7割に増やします。

低コスト造林技術を導入した事業体の割合を平成31年度までに7割に増やします。

<内容>

1. 次世代架線系高性能林業機械等開発推進

I T技術等を活用し、安全性と省エネルギー化などに優れ、急傾斜地等における効率的な作業システムに対応した林業機械の開発を行います。

2. 低コスト造林技術実証・導入促進

伐採と地拵えの一体化による低コスト造林技術等を実証してデータを収集・整理し、導入促進に向けたノウハウの提案等を行います。

3. 「緑の雇用」林業機械・作業システム高度化技能者育成【再掲】

急傾斜地等での効率的な架線集材を実現する高度な索張り技術等を備えた技能者の育成とともに、森林作業道作設オペレーターの育成強化を行います。

【再掲：「緑の雇用」現場技能者育成対策事業】

<委託先>

民間団体等

<事業実施期間>

平成26年度～30年度（5年間）

[担当課：林野庁研究指導課、整備課]